

子育てと

子の教育

子どもは自ら考え
自ら行動する

基本的信頼感を
持つことが大切

6月14日（金）、つるた乳幼児園において「子育ては社会で!!」のテーマで神戸大学大学院准教授の北野幸子さんによる講演が行われました。

今回は、町から「地域子育て支援事業」の指定を受けているつるた乳幼児園が鶴田町子育て支援センターとして開催する今年度第一回目の育児講座となります。

講演では、国境を越え、世界の幼児教育と家庭の連携の研究を続ける北野さんが、聴講に集まったたくさんの方々に話をしました。



△たくさんの方々が講演に聞き入りました。

講演について、つるた乳幼児園園長の福澤紀子園長は「北野先生の「子どもにいろんな体験をさせ、自ら考え、行動する子どもを育てる」という考えにとっても共感している」と話していました。

「子どもは地域の宝」。子育てにおいて、子どもは地域の宝として育てることを考える北野さんは「子どもから、あこがれや探求心などが溢れているうちに地域と園、保護者が連携して一緒に子どもを育てる環境を作ることが大切であり、また、子どもが小さい頃から人に頼られることや愛されることを知ることが大切なんです」と話しました。その背景には、子どもができないように扱われ、「期待」されることがなくなると、子どもはかえって頑張れなくなること、心傷つけてはならないことを

北野さんは話しました。

子どもの自己肯定感を高く、子どもが人に対して肯定的な信頼感、すなわち「基本的信頼感」を持つことで、子どもは自分から「こうしたい」と考えます。たとえば、話し方ひとつでも、「靴を早く履きなさい!」と叱るのではなく、「靴はどっちを履くの?」という感じで話しかけてみるだけでも、子どもには「次に何をしたらよいか」と考える余地が生まれます。子どもに「期待」して子育てをすると、子どもはそれに応えて自分の力で行動するということを北野さんは教えてくれました。

● 北野 幸子 氏

1993年、神戸大学教育学部幼児教育科卒業。95年、ミネソタ大学特別研究員、2001年、広島大学論文博士取得。

広島国際大学、福岡教育大学を経て、現在、神戸大学大学院 人間発達環境学研究科 教育・学習専攻准教授に至る。

主な役職には、環太平洋乳幼児教育学会理事（2004年～現在）、国際幼児教育学会常任理事（2004年～現在）などがある。著書には「遊び・生活・学びを培う教育保育の方法と技術」や「保育課程論」などがある。専門分野は乳幼児教育学、保育学、保育領域の専門性。



△「子どもは地域の宝である」と話す北野幸子さん。

目に見えないものが 大切なのです

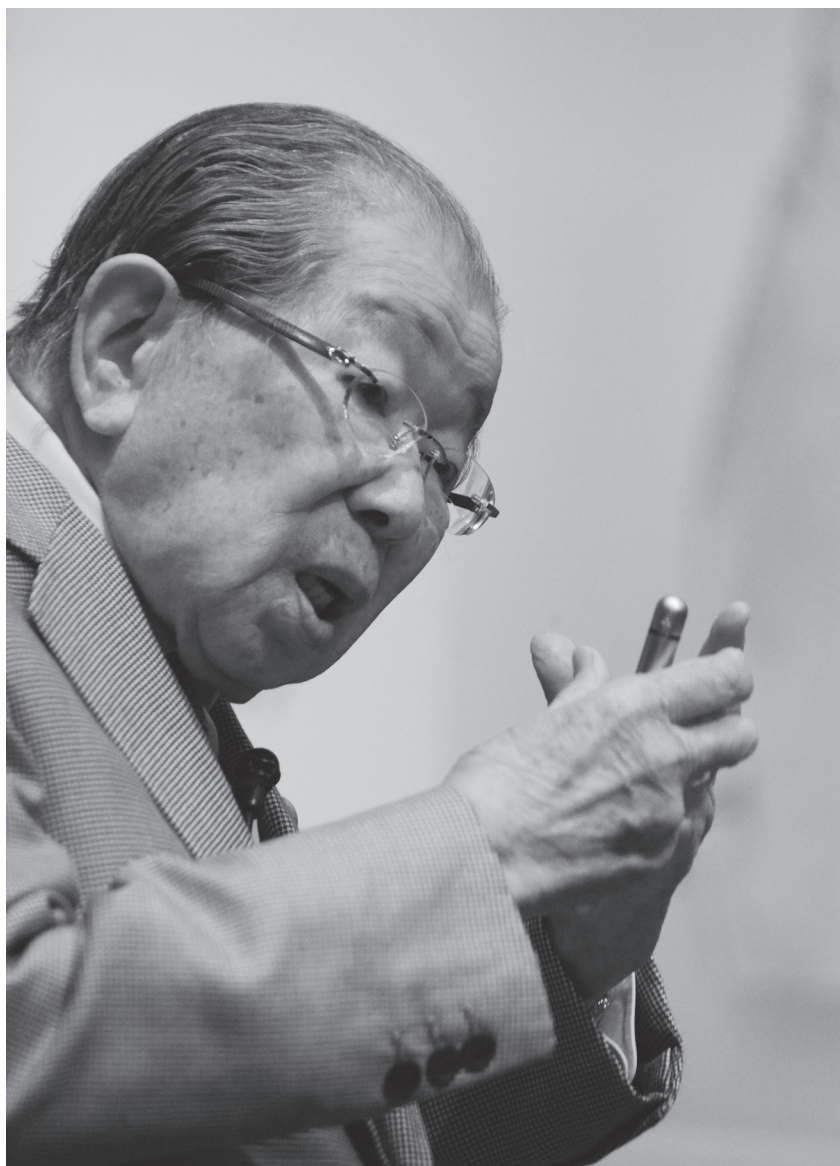
6月9日（日）、鶴田町国際交流会館ホールにおいて「家庭教育のエッセンス」のテーマで日野原重明さんによる講演が行われました。当日、会場となった国際交流会館ホールには会場から溢れるばかりの大勢の方々が訪れました。

この日、日野原さんは前日の五所川原市での講演の疲れも見られないほどの明るく輝かしい表情を見せ、101歳ながらも一時間の講演の最中、休まず立ちながら、大きな声と身ぶりです話すユーモラスな講演に大勢の方々が見入っていました。

「学校よりも家庭の方が教育には必要であることを知ってほしい」と話す日野原さんの講演は、童話「星の王子様」の中の言葉から始まりました。「大人は誰も初めは子どもだった。しかし、その事を忘れずにいる大人は少ない」という言葉を使い、大人が子どもを教育する際には、ただ叱ったりするのはなく、自分も最初は子どもだったことを忘れないでほしいということ伝えていました。

子どもの教育は 家庭教育にあり

日野原さんは「最も大切なのは目に見えないものであり、それを子どもに教えなければならぬ」と話した上で、ルソーや福沢諭吉ら数々の偉人の言葉を使いながら、子どもの教育には何が大切なのかについて話を展開しました。また、「子どもたちにはモノではなく、内的なものを与えなければならぬ」と話した上で、福沢諭吉の「習慣の力は教授の教える力よりも重大である」との言葉を使いながら、「お父さん、お母さんの生き方とその家風、それによって子どもは成長する。だから家は習慣の学校であり、子どもを持つ皆さんは家庭において、子どもを教育するためにはどうやったらいいかということを実感しなくてはいい」と話しました。そして、子どもにはいろんなことを体験させ、考える習慣をつけさせることが大切なのであり、子どもに本を読ませたり、動物園に連れて行くことは子どもにとって非常に良いことであると話し、終始、子どもの教育は家庭教育に重きがあることを丁寧に教えてくれました。



△「皆さんが鶴田町に住んでいられることは貴重なことです」と最後に話してくれました。

● 日野原 重明 氏

1911年、山口県に生まれる。現在、一般財団法人ライフ・プランニングセンター理事長などの役職を務める。2005年文化勲章受章。日本の医学・看護学・医療専門職者教育の革新に尽力するとともに、はやくから一般の人々への健康教育、予防医学、医療の重要性を指摘し、「生活習慣病」という名称を生み出すなど、常に日本の医療をリードしている。

2000年には「新老人運動」を提唱し、「新老人の会」を発足。国内のみならず、世界に活動の輪を広げることに精力を注いでいる。

著書には「十歳のきみへ」「百歳は次のスタートライン」「いのちの使いかた」「わくわくフェイスブックのすすめ」など多数。



△中野町長ら大勢の方々が日野原さんの話に聞き入りました。